

平成29年度外務省調達改善計画

1. 調達の現状分析

(1) 平成27年度調達の契約種別

外務本省の総契約件数・金額は、【表1】で示しているとおおり、1,326件、598.3億円である。また、競争性のある契約は767件(57.8%)、281.3億円(47.0%)、競争性のない随意契約は559件(42.2%)、317.0億円(53.0%)となっている。

(2) 平成27年度調達の応札状況

平成27年度における応札状況は、【表2】のとおり、競争性のある契約中、一者応札が、競争入札で230件(47.6%)、22.3億円(42.9%)、企画競争による随意契約で94件(41.4%)、31.8億円(16.4%)、公募による随意契約で54件(100%)、34.3億円(100%)となっており、年度により増減はあるものの、依然として高い割合を占めている。したがって、一者応札については特に調達改善を推進していく必要性が高い。

(3) 平成27年度調達経費内訳

平成27年度における契約分類別の調達実績の上位10類型は、【表3】のとおりである。サミット等大型会議が増加したことにより、事業実施・会議運営経費190.8億円(全体の31.9%)が大きな割合を占める結果となっており、物品調達経費(物品製造及び物品購入の合計)77.6億円(全体の13.0%)及び、システム関係経費43.8億円(全体の7.3%)と合わせ、外務省における調達契約の大宗(52.2%)を占めている。したがって、これらの類型の調達について、重点的に改善をしていく必要性が高い。

【表1】平成27年度外務省における調達の契約種別

(単位：件、億円)

契約方式		契約件数	割合	契約金額	割合
競争性のある契約	競争入札	483	36.4%	52.0	8.7%
	企画競争による随意契約	227	17.1%	193.5	32.3%
	公募による随意契約	54	4.1%	34.3	5.7%
	不落・不調による随意契約	3	0.2%	1.5	0.3%
	小計	767	57.8%	281.3	47.0%
競争性のない随意契約		559	42.2%	317.0	53.0%
計		1,326	100.0%	598.3	100.0%

(注1) 平成27年度の契約に関する統計等に基づき作成(少額随意契約は含まない。)

(注2) 金額及び比率については、それぞれ単位未満四捨五入しているため、合計に於いて一致しない場合がある。

【表2】平成27年度外務省における調達の実績状況

(単位：件、億円)

	1者		2者以上		合計	
	契約件数	契約金額	契約件数	契約金額	契約件数	契約金額
競争入札	230	22.3	253	29.7	483	52.0
割合	47.6%	42.9%	52.4%	57.1%	100%	100%
企画競争による随意契約	94	31.8	133	161.6	227	193.4
割合	41.4%	16.4%	58.6%	83.6%	100%	100%
公募による随意契約※	54	34.3	0	0	54	34.3
割合	100%	100%	-%	-%	100%	100%

(注1) 平成27年度の契約に関する統計等に基づき作成 (少額随意契約は含まない。)

(注2) 金額及び比率については、それぞれ単位未満四捨五入しているため、合計に於いて一致しない場合がある。

【表3】平成27年度外務省における調達経費の内訳(上位10類型)

(単位：件、億円)

	契約件数	割合	契約金額	割合
事業実施・会議運営	178	13.4%	190.8	31.9%
物品製造	31	2.3%	67.8	11.3%
システム関係	182	13.7%	43.8	7.3%
派遣職員	28	2.1%	43.6	7.3%
委託費	4	0.3%	16.5	2.8%
通信回線使用料	12	0.9%	13.0	2.2%
物品購入	85	6.4%	9.9	1.7%
情報配信・モニタリング	30	2.3%	8.1	1.4%
招聘・賓客接遇	273	20.6%	7.7	1.3%
調査・研究	39	2.9%	5.9	1.0%
その他	464	35.1%	191.0	31.8%
合計	1,326	100.0%	598.3	100.0%

(注1) 平成27年度の契約に関する統計等に基づき作成 (少額随意契約は含まない。)

(注2) 金額及び比率については、それぞれ単位未満四捨五入しているため、合計に於いて一致しない場合がある。

2. 自己評価の実施方法

計画に関する取組状況等について、実施において明らかになった課題を四半期毎に把握するものとし、必要な場合には、計画の進捗状況、実施において明らかになった課題等を踏まえ、指針の改定、所要の見直しを行うものとする。

また、上半期及び年度末のレビューにあわせて、実施において明らかになった課題等を盛り込んだ自己評価を行い、ホームページにおいて公表する。

3. 調達改善推進体制の構成

(1) 外務省調達改善推進チーム（事務局：会計課）

調達改善を推進する担当チームとして、官房長を統括責任者とする「調達改善推進チーム」を設置し、計画の策定、進捗把握・管理等を実施するため、随時会合を開催する。なお、必要に応じて関係部局の参加を求める。

○外務省調達改善推進チーム

統括責任者：大臣官房長

統括責任者代理：大臣官房会計課長

メンバー：大臣官房会計課 担当
関係部局 担当

(2) 外部有識者の活用（契約監視委員会）

調達改善推進チームにおいて取りまとめた調達改善計画及び検証結果について、外部有識者（大学教授2名、弁護士2名、公認会計士1名）により構成される「契約監視委員会」に対し、民間における取組などを踏まえた第三者的な視点からの意見を求める。なお、必要な場合には、計画に反映させ、その内容を公表する。

(3) 内部監査の活用

内部監査テーマに選定された事案の監査結果を踏まえ、調達改善計画の進捗把握・管理等が適正に行われているかどうか評価し、調達改善を推進する。

(了)

その他の取組

具体的な取組内容	新規 継続 区分	特に効果があった と判断した取組	取組の効果 (どのようなことをして、どうなったか)	
			定量的	定性的
1 汎用的な物品・役務 物品調達(物品製造及び物品購入)は調達総額に占める割合が13.0%と比較的高く、予算執行の効率性を高める必要性が高い分野である。仕様の見直し及びスケールメリットの見直しを図るとともに、少額随意契約の案件についてオープンカウンター方式を導入し、より競争性のある契約への移行を検討する。また、役務についても質の確保を図りつつ、競争性を高めコスト削減に努める。	継続			
2 システム関係経費 システム関係経費は、調達金額総額の大きな割合を占めており、国庫債務負担行為を活用した複数年度にわたる契約の活用等を行い、調達事務コストの軽減や中期的な展望に立った事業計画の立案と安定したシステムの構築に努めている。中でもシステムの賃貸借・保守等経費は19.5億円であり、システム関係経費の約4割5分を占めていることから、業務・システムの最適化計画を踏まえ、システム統合を図ること等により、賃貸借・保守に関する調達改善を検討する。	継続			
3 調達改善環境の醸成 ・調達手続きに関する習熟 ・調達改善ノウハウの向上 ・調達等の専門家養成 ・人事評価制度の有効活用	継続			
4 調達情報の公開 電子調達システムにおいて、契約情報を公表しているが、今後とも、調達に係る仕様書を電子調達システムで公表し、事業者の利便性及び新規参入者の促進を図ることとする。	継続			
5 クレジットカードの活用(水道料金の徴収)	継続			
6 国庫債務負担行為の活用(複数年度契約の検討)	継続			

「調達の流れ」イメージ（一般競争契約）

